**テーマ：知念正真の戯曲『人類館』における沖縄差別**

北京語言大学　　李韋卓

**摘 要**

因中转贸易而繁荣的琉球曾是一个独立王国。明治政府对琉球进行了“琉球处分”，琉球王国在1879年灭亡。明治政府在此设立了行政区域——冲绳县，从此冲绳成了日本的一部分。

虽然成为了日本的一部分，但是冲绳却一直受到来自日本本土的歧视。针对冲绳的现状，冲绳百姓内部持有不同看法。一部分冲绳人积极地接受来自日本的同化教育，为寻找新的生活方式不断探索；另一部分冲绳人则采取消极的态度，保持着琉球人旧有的生活习惯。冲绳百姓面临来自日本本土的歧视以及冲绳内部的纠葛的困扰。

冲绳戏曲作家，知念正真创作了戏曲《人类馆》。他以近现代在冲绳发生的各重大事件为背景，鲜明地描绘了冲绳所面临的来自日本本土的歧视以及冲绳内部的纠葛问题。

本文将对《人类馆》的登场人物，调教师、被陈列的男性以及被陈列的女性，三者的形象进行分析，着眼于调教师施行的同化教育、“冲绳战”等与战争相关的场面来探讨冲绳所面临的来自日本本土的歧视问题，详细论述代表大和人身份的调教师与被陈列的冲绳男性和女性之间的“歧视·被歧视”构造。

同时也将分析登场人物三者之间，即冲绳内部的纠葛问题。调教师的言行举止都具有大和人的特点，但实际上他是冲绳人，即所谓的“新大和”。“新大和”身份的调教师是接受同化教育的冲绳人中的知识分子。他在多个场面歧视被陈列的男性和被陈列的女性；被陈列的男性和女性在受到歧视时不敢反抗，采取消极的态度。可以说调教师是探索新的生活方式的冲绳人的代表；而被陈列的男性和女性则是消极地对待现状的冲绳人的代表。

通过本文的研究，现代冲绳人能切身感受冲绳歧视这一问题，进而抱有危机感。同时，也为冲绳人在思考如何对待冲绳社会的一系列问题时提供了借鉴。

**关键词**：冲绳文学；《人类馆》；知念正真；冲绳歧视

i

**要 旨**

中継ぎ貿易で栄えた琉球は独立した国であった。明治政府の「琉球処分」のもとで、1879年、琉球王国は終止符を打たれ、沖縄県が設置された。

日本の一部となったとは言え、よく本土に差別されてきた。そして、沖縄現状に直面する際、沖縄人の間でも食い違った見解がある。積極的に日本本土からの同化教育を受け入れ、新しい生き方を開拓するのか、それとも、消極的に琉球人の古い習慣を受け継いでいくのか。沖縄民衆は、日本本土に差別されたこと及び沖縄内部における葛藤といった悪夢にうなされてきた。

沖縄出身の戯作家、知念正真は戯曲『人類館』を創作した。沖縄で起こった近現代の重大な事件をモチーフとして、日本本土からの差別と沖縄内部における葛藤を鮮明に描いている。

本稿は『人類館』における登場人物の調教師、陳列された男、陳列された女、三者の人物像の設定を分析し、調教師からの同化教育、「沖縄戦」をはじめとする戦争のシーンを絞って、日本本土からの差別を検討していく。さらに、大和人を象徴する調教師と沖縄人である陳列された男女の間での「差別・被差別」という構造を詳しく検討していく。

また、沖縄内部における葛藤を分析していく。大和風に振舞う調教師だが、実は沖縄出身の沖縄人である。いわゆる「新大和」である。「新大和」である調教師は、日本本土からの同化教育を受容した沖縄人インテリ層である。多くのシーンで沖縄人の陳列された男女を差別している。一方、陳列された男女は反抗することなく、消極的に調教師からの差別を受けた。調教師は新しい生き方を開拓しようとする沖縄人の代表者であり、陳列された男女は消極的に生きている沖縄人の代表者であると言えよう。

本稿の研究を通じて、現代の沖縄人が沖縄差別という問題をもっと身近に感じて危機感を持つようになる。そして、現代の沖縄人がどのように沖縄の一連の問題に直面すべきかということを考える際にも役に立つ。

**キーワード：**沖縄文学；『人類館』；知念正真；沖縄差別

ii

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  | **目次** |  |
| 摘 | 要.................................................................................................................................................................... | i |
| 要 | 旨.................................................................................................................................................................. | ii |
| はじめに................................................................................................................................................................ | 1 |
| 1． 研究の契機.................................................................................................................................................... | 1 |
| 2． 先行研究........................................................................................................................................................ | 4 |
| 3. | 研究の価値.................................................................................................................................................... | 8 |
| 第一章 | 対立した人物像の設定....................................................................................................................... | 9 |
|  | 1.1 | 調教師...................................................................................................................................................... | 9 |
|  | 1.2 | 陳列された男女................................................................................................................................... | 10 |
| 第二章 | 調教師と同化教育............................................................................................................................. | 12 |
|  | 2.1 | 「天皇陛下万歳」という言葉の教育............................................................................................... | 12 |
|  | 2.2 | 調教師からの同化教育....................................................................................................................... | 13 |
| 第三章 | 戦争体験............................................................................................................................................. | 15 |
|  | 3.1 | 陳列された男女の戦争記憶............................................................................................................... | 15 |
|  | 3.2 | 沖縄戦時中の調教師........................................................................................................................... | 16 |
| 第四章 | 登場人物間の問題............................................................................................................................. | 17 |
|  | 4.1 | 言語的な葛藤....................................................................................................................................... | 17 |
|  | 4.2 | 内部における葛藤............................................................................................................................... | 18 |
| 終わりに.............................................................................................................................................................. | 21 |
| 参考文献.............................................................................................................................................................. | 22 |
| 謝辞...................................................................................................................................................................... | 23 |

**はじめに**

**1．研究の契機**

日本語学科の学生としては、日本をしっかり理解するために、日本語のみならず、日本文化と日本文学などの知識も身につけるべきだと思われている。文学から、時代の移り変わり、作家たちの価値観と世界観などを捉えることができる。

その中で、あまり重要視されていない日本の一隅、沖縄と日本文学の一隅、沖縄文学に目を向けることができた。

中継ぎ貿易で栄えた琉球は独立した国であった。明治政府の「琉球処分」のもとで、1879年、琉球王国は終止符を打たれた。沖縄県が設置され、日本の一部となった。

日本の一部となったとは言え、日本本土並みの位置づけではなく、よく本土に差別されてきた。1903年大阪で開催された第五回内国勧業博覧会で、琉球、アイヌ、朝鮮などの異民族の土人を集め、見世物として展示したこと、いわゆる、「人類館事件」から、沖縄差別がはっきり捉えられる。第二次世界大戦において、沖縄は日本唯一の戦場となり、多くの沖縄人は沖縄戦で日本軍人に差別され、「集団自決」という形で、命の終わりを告げた。

1951年、日本とアメリカが合意に達し、日米安保条約に調印した。条約に基づき、米軍基地を設置し、核実験の場を建設した。また、沖縄復帰の1972年まで、由美子ちゃん事件の発生などのことから、沖縄は占領軍である米軍に支配されたことがよく見られる。1972年沖縄は日本に復帰したが、米軍基地はまだ存在している。しかも、沖縄民衆は、大きな負担を背負っている。「一九七四年十二月までに、（中略）日本全体の米軍基地（専用施設）の約

四分の三が、国土面積の○・六パーセントの沖縄に集中している」[1]と新崎

盛暉が沖縄における米軍基地の面積を説明した。日本国土面積の0.6%しか占

めない沖縄では、なぜ過半数の米軍基地が存在しているのか。捨て子のよう

な沖縄は日本本土に差別されたからであろう。

それ以外に、沖縄内部は直面しなければならない社会問題にどのように対

処すべきか、積極的に日本本土からの同化教育を受け入れ、新しい生き方を



[1]新崎盛暉.『沖縄現代史』[M].岩波新書,1996:26.

1

開拓するのか、それとも、消極的に琉球人の古い習慣を受け継いでいくのか

といった問題にも葛藤が起こった。すなわち、沖縄人は、日本本土に差別さ

れたことと沖縄内部における葛藤といった悪夢にうなされてきた。

では、沖縄差別は文学作品の中に、どのように描き出されているのか。

沖縄出身の作家、東峰夫（1938- ）が芥川賞受賞作、『オキナワの少年』

[2]において、少年の視点から沖縄の女性たちが受けている差別と直面してい

る悲惨な現状を指摘している。沖縄出身の詩人、山之口貘（1903-1963）が

『会話』[3]と題する詩歌の中で、「お国は？」と聞かれるとき、「沖縄であ

る」と答えられない複雑な気持ちと日本本土からの差別と偏見などの悩みを

描写している。日本本土の作家、ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎

（1935- ）は沖縄で身をもって差別という問題を体験した。それらの体験を

踏まえて、『沖縄ノート』[4]において沖縄が受けている差別と沖縄民衆の意

識を指摘していると同時に、自分が日本本土の身分であることから、責任を

感じる。自責の気持ちを表している。

また、もう一つ注目すべき沖縄差別に言及した作品は、戯曲『人類館』で

ある。『人類館』[5] （初版は1976年の初演の台本と舞台写真を踏まえてい

る）は戯曲という形で、沖縄の歴史を総括し、沖縄出身の戯作家、知念正真

（1941-2013）の著した傑作で、1978年、第二十二回「演劇界の芥川賞」と呼

ばれる岸田國士戯曲賞を受賞した作品でもある。「『人類館』は知念正真の

所属する演劇集団「創造」の第十一回公演のために書き下ろされた」[6]。コ

ザを皮切りに、宮古、八重山をはじめとする沖縄本島だけではなく、日本本

土の東京、大阪でも上演された。知念正真は、戯曲という形で、沖縄で起こ

った近現代の重大な事件をモチーフとして、一定の空間の中で、表現巧みに

言い回す創作技巧で、沖縄差別を描写している。『人類館』から、教育、戦



[2]東峰夫.『オキナワの少年』[M].文藝春秋,1980.

[3]山之口貘.『会話』[A].『山之口貘全集』第１巻[M].思潮社,1975.

[4]大江健三郎.『沖縄ノート』[M].岩波新書,1970.

[5]知念正真.『人類館』[A].新沖縄文学（33 号）[M].沖縄タイムス社,1976.

1. [坂本（平敷）尚子](https://www.jstage.jst.go.jp/search/global/_search/-char/ja?item=8&word=%E5%9D%82%E6%9C%AC%EF%BC%88%E5%B9%B3%E6%95%B7%EF%BC%89+%E5%B0%9A%E5%AD%90) . 沖縄人の自問自答 ― 知念正真『人類館』再考 [C]. 演劇学論集 , 2008(46):5．

2

争などの面における日本本土からの差別、及び沖縄内部における葛藤が鮮明

に捉えられる。『人類館』は沖縄差別を研究する上での見逃せない作品とも

言えよう。

本稿は、知念正真の戯曲『人類館』において、沖縄差別がどのように描き

出されているか、新たな視点から検討したい。教育、戦争などのシーンを絞

って、『人類館』の中で語られている沖縄人が受けた日本本土からの差別を

分析していく。また、『人類館』の中で語られている沖縄内部における葛藤

も検討したい。

本稿は、『沖縄の文学－高校生のための副読本／近代・現代編』に載せら

れた改訂版の『人類館』[7]というテキストを分析し、テキストにおける人物

像の設定を比較し、テキストにおける舞台演出の研究を行うと同時に、テキ

ストに拘ることなく、沖縄生まれの有名な俳優、津嘉山正種によって一人語

りの『人類館』朗読版のＣＤを聞き、考察する。また、政治的な面も、歴史

的な面も考慮に入れる。沖縄差別を一層深く理解できるようにするためであ

る。



[7]知念正真.『人類館』[A].沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991.

3

**2．先行研究**

**2.1 戯曲『人類館』というテキストについての研究**

今までに、『人類館』テキストに言及した中国側の研究成果はない。日本

側の研究成果は次の通りである。

まず、『人類館』の各シーンについての研究成果である。

登場人物である「調教師ふうな男」（以下、調教師）、「陳列された女」

（以下、女）、「陳列された男」（以下、男）三者の関係に視点を置いて、

初版の『人類館』の全体的な内容を詳しく分析し、時代背景にも考慮を入れ、

坂本（平敷）尚子は15個シーンに分けた。

シーン１は、差別の構造を提示し、観客の注意を喚起させる役割を果たす。

「シーン2～4では、日本帝国主義下の大和・沖縄の差別・被差別、支配・被

支配関係が提示されていた」[8]。シーン5から、大和・沖縄の支配者・被支配者の関係が一層明確にされていたことが分かる。シーン6～7では、日本政府が沖縄に強引的な政策を採り、沖縄風の生活習慣を排除し、沖縄人は沖縄人である身分によって差別待遇されるべきだなどの差別・被差別の関係は沖縄人が抵抗しても変わらないということが分かる。シーン8～11から、沖縄戦の時期、沖縄人は米軍からの被害を受けると同時に、大和人からも差別されることが提示された。シーン12～15では、調教師は男女と同様に沖縄人であることが分かり、爆発した芋で死んだ。男は調教師のように大和風に振る舞い、女は小屋に戻る形で、戯曲の幕を閉じさせる。

次は『人類館』における言語的な分裂についての研究成果である。

言語学的な立場から、「調教師」の言葉遣いを分析する新城郁夫は調教師の三つの話を例として挙げ、『人類館』における言語的な分裂を指摘した。第一に、「馴れればならんのラ」の「ラ」は「明かな訛り、（中略）沖縄口の訛りを潜ませている。（中略）「ウチナーヤマトグチ」が混入しているこ

との明らかな証拠なのである」[9]。第二に、「サア、モウヨロシイレソー」



1. [坂本（平敷）尚子](https://www.jstage.jst.go.jp/search/global/_search/-char/ja?item=8&word=%E5%9D%82%E6%9C%AC%EF%BC%88%E5%B9%B3%E6%95%B7%EF%BC%89+%E5%B0%9A%E5%AD%90) . 沖縄人の自問自答 ― 知念正真『人類館』再考 [C]. 演劇学論集,2008(46):11.

[9]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論集,2000(6):104.

4

の「ソー」はウチナーヤマトグチのよく使われる言葉遣いである。第三に、

沖縄戦のシーンでは、三人は全て戦争の悲惨な状況を沖縄口で語る。調教師

は男女と同様に沖縄人であることも作品の終わりに近づいてきた部分で明ら

かにされた。

新城の挙げた三つの例を一層深く理解するために、まず、「ウチナーヤマ

トグチ」について明らかにする。

「標準語の影響を受けて琉球方言の変化にも独自性を呈した。（中略）日

本全土の広い範囲で標準語を使用する際、各地で流行っている方言の発音が

混じっている。このように標準語と琉球方言の影響を受けて、形成された独

自な言語がウチナーヤマトグチである」[10]と劉永輝が「ウチナーヤマトグチ」の形成を指摘した。

つまり、「ウチナーヤマトグチ」は、標準語の大和口の影響と、方言の沖縄口の影響を受けた独自性を持っている言語である。『人類館』の中で、「ウチナーヤマトグチ」、「大和口」、「沖縄口」が交錯して使われている。

そもそも、差別する日本本土と差別された沖縄との対立的な関係は、標準語である「大和口」と方言である「沖縄口」を通して示されていると思われる。「ウチナーヤマトグチ」の役割について、新城は次のように述べている。

その混交的な言語的多声性を（中略）実現させているウチナーヤマトグチは、「方言」という枠組みさえ越えて、（中略）日本（人）対沖縄（人）といった対峙的な主体の断層までをも揺るがし、この対立的構図

を差異化し交錯させていく契機となっていくのだった。[11]

「ウチナーヤマトグチ」は固定の対立的構図を差異化し交錯させていく役割を果たしていると言えよう。「ウチナーヤマトグチ」の混在は沖縄内部における葛藤を示唆する。



[10] 刘永辉.论日本冲绳方言与“冲绳日语”的形成[J].中南林业科技大学学报（社会科学

版）,2009,3(6):119.筆者訳.

[11]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論

集,2000(6):106.

5

また、沖縄の社会問題にも考慮を入れて、言語的な分裂に対して、「戯曲

『人類館』がことばの葛藤を通じて二項対立的な立場を批判し、沖縄がおか

れている状況の複雑さや困難を告発したことは確か」[12]であると金誾愛は新

城とほぼ同じ考え方を述べている。

第三に、『人類館』の創作技巧についての研究成果である。

冒頭のト書きの部分には、それ以後のテキストの「展開を決定するような

重要なモチーフが（中略）予告的に展示されている」[13]と新城がまとめた。

具体的に言うと、「「リウキウ、チョーセンお断り」と書いた札」が後の

「方言札」の設定を提示し、「防空壕」は、後の沖縄戦のシーンを想像させ

ることができる[14]ということも新城の分析から分かる。すなわち、全てのモ

チーフが冒頭に現れている。

ト書きの部分以外、作品の「変換の空間設定」というレトリックの役割に

ついて、「作品は、変転に変転を重ね、近代沖縄の歴史的事件を横断しなが

ら多様な人間模様を見せていくことになる」[15]と新城は述べている。変換の

空間設定を持っている『人類館』は断片的で散発的な印象を持たせると言え

よう。

変換の空間設定を持っている「『人類館』を読むとき、目まぐるしい印象

を持ちながら、そこに何らかの求心力を感じることは確かであ」[16]ると新城

は、『人類館』におけるレトリックの積極的な効果を指摘した。



[12]金誾愛.演劇集団「創造」研究における問題提起：戯曲『人類館』を手がかりに(研究ノー

ト)[J].東京外国語大学海外事情研究所 クァドライテ：四分儀：地域・文化・位置のための

総合雑誌,2013(15):349.

[13]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論

集,2000(6):84.

[14]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論

集,2000(6):85-86.

[15]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論

集,2000(6):86.

[16]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論

集,2000(6):90.

6

**2.2 『人類館』の評価についての研究**

1978年、第二十二回岸田國士戯曲賞の選考の際に、『人類館』は次のよう

に評価されていた。

日本の戯作家で、日本芸術院会員でもある田中千禾夫（1905-1995）による

と、『人類館』は初めての「沖縄発」の演劇作品であり、よく注目された[17]

という。「沖縄の現実を、単なる政治的図式に終わらせることなく、自嘲の

苦しさも含めてイローニッシュにまとめあげている点、したたかな批評性を

感じた」[18]と日本の戯作家、評論家であり、日本の不条理演劇を確立した第

一人者である別役実（1937- ）が『人類館』の内容と沖縄の社会状況にも考

慮を入れて、自分なりの考え方を述べている。「沖縄人の怨念のみから戯曲

を生んではおらず、沖縄の被差別性や劇的諸契機を充分に対象化」[19]してい

ると日本の戯作家である八木柊一郎（1928-2004）は作家の創作動機を考えな

がら、評価した。

選考のみならず、沖縄出身の名高い作家である岡本恵徳（1934-2006）も

『人類館』を高く評価している。「沖縄の抱いている弱さを笑いでくるみな

がら容赦なく抉りだすにとどまらず、沖縄の庶民の弱さと背中合わせのした

たかさをも表現しえたところに、画期的な意味があった」[20]と岡本恵徳は沖

縄の抱いている弱さと沖縄民衆の弱さの描写に力を注ぐ『人類館』に対して

好評している。



[17]田中千禾夫.選評[J].新劇,1978(3):112-113.

[18]別役実.選評[J].新劇,1978(3):113.

[19]八木柊一郎.選評[J].新劇,1978(3):115.

[20]岡本恵徳.『現代文学にみる沖縄の自画像』[M].高文社刊,1996.

7

**3．研究の価値**

画期的な意味があり、初めての「沖縄発」の演劇作品である『人類館』から、沖縄の抱いている問題と沖縄差別がはっきり捉えられる。沖縄文学において揺るぎない地位がある。けれども、残念ながら、今までに、戯曲『人類館』に言及した中国側の研究成果はない。

一方、知念正真の戯曲『人類館』を課題として研究を行う日本側の研究者はいるけれども、主に各シーン、言語的な分裂、レトリックなどの角度からの分析にとどまっている。『人類館』における沖縄差別に言及した研究成果はあまり見られない。

『人類館』から、教育、戦争などの面における日本本土からの差別、及び沖縄内部における葛藤が鮮明に捉えられる。『人類館』は沖縄差別を研究する上での見逃せない作品とも言えよう。

本稿の研究を通じて、知念正真の文学作品『人類館』の中で語られている沖縄差別を一層深く理解するだけではなく、沖縄の直面している状況の複雑さや困難を分析し、現代の沖縄人がどのように沖縄の一連の問題に直面すべきか、どのような生き方を選ぶべきか。新しい生き方を開拓するのか、それとも、消極的に琉球人の古い習慣を受け継いでいくのか。これらのことを考える際にも役に立つ。現代の沖縄人が沖縄差別という問題をもっと身近に感じて危機感を持つようになる。社会的な価値が本稿の研究にもある。

8

**第一章 対立した人物像の設定**

『人類館』における登場人物は三者である。三者の人物像をしっかり捉え

るために、各シーンでの役を詳しく考察する必要がある。

**1.1** **調教師**

幕が開くと、鞭を持っている調教師が登場する。調教師は、人類館に来ている観客に向かって、大和口で差別が起こった原因、人類普遍の原理などを解説する。ここでは、調教師は調教する人の役そのものである。舞台が明るくなると、琉球館に陳列された男女が視野に入る。鞭を持ちながら、調教師は大和口で男女の身体的特徴と琉球人の衣食住の習慣を軽蔑するような口調で解説する。

琉球館での解説が終わった後、調教師は一度去った。再び来ると、騒いでいる男女を鞭で調教する。調教師は男のここでの環境への不平不満を知った後も、また粗暴な振る舞いで説教する。ここでは、差別するように感じられる。

続いて、シーンは変わり、調教師は男女に日本語と日本人の秩序意識を馴れさせ、日本人としての覚悟を強制的に持たせる。調教師の差別がはっきり捉えられる。ここでの教育の目的は、ただの言語的な教育だけでなく、民衆の思想までも改造することを目標としている。

その次は、1975年沖縄で開催された海洋博覧会をモチーフとするシーンになる。調教師は屋良知事と当時の皇太子の役に転身する。屋良知事と皇太子はひたすら海洋博覧会で、挨拶をし、沈黙を余儀なくされた兵士たちを失語症に陥らせる。

その次、給食のシーンでは、調教師は、男女が早く大和風の生活習慣に馴染むように、芋から米へと日本本土の生活に同化するよう、強制する。また、食事が済んだ女には日本の防波堤になるよう、強制する。くしゃみを大和風にしなかった男には暴行を加えながら、首に方言札をぶら下げる。方言札というのは、1907年から、1950年まで、特に沖縄では、標準語教育推進のため、小中学校で方言を話した生徒に罰として首から下げさせた木札である。このことから、大和風と異なる一切のことは許されないとも言えよう。調教師の強制的に同化を促す姿から、男女への差別が容易に捉えられる。

9

それ以外のシーンでは、調教師が取調官、沖縄のある精神病院の医者、日

本軍人などの役に転身する。場所や調教師の役が変わっても、それらのシー

ンはすべて戦争と深い関係を持っている。そして、調教師が戦時中に男女の

あらゆる行動を支配し、男女に軽蔑の念を抱いて横柄に指導する。これによ

って、戦争の悲惨な状況を再現していることは言うまでもなく、日本軍人の

差別意識と大柄な態度までも鮮明に描写されている。

戦争のシーンの後、調教師は戦後の教育者という役に転身する。男女に新

生沖縄県の戦後の復興と復帰運動に力を注ぐよう、強制する。

また、この作品で注目すべきことは語の位相である。調教師の言葉遣いを

見よう。調教師は観客に対しては、「お待たせ致しました。こちらが琉球館

でございます」[21]、「とくとご覧いただきたい」[22]などの敬語を使い、親切

で丁寧な態度で接する一方、男女に対しては、躊躇うことなく「黙れ」[23]、

「良く聞け」[24]のような乱暴な言葉遣いを使っている。語の位相から、調教

師の男女に対する差別が容易に捉えられる。

各シーンでの調教師の役と語の位相という角度を分析すると、調教師が差

別の主体で支配の者であるということが容易に捉えられる。では、陳列され

た男女の役はどうだろうか。

**1.2** **陳列された男女**

琉球館に、陳列された男女は異人種と見なされる琉球人である。調教師に

身体的特徴と生活習慣を差別されている。

男女が音楽とダンスに熱中している時、鞭を持っている調教師に中止させ



[21]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:226.

[22]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:227.

[23]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:246.

[24]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:252.

10

られるシーンでは、男女は普通民衆の役である。男女がいくら愚痴をこぼしたとしても、調教師には相手にされず、男女は差別の対象になっている。

続いて、男女は日本語と日本人の秩序意識を無理矢理に強制される。方言の使用は一切許されず、大和口で話さなければならない。しかも「天皇陛下万歳」という言葉をうまく発音できない男は方言札をぶら下げられる。地域ならではの特徴を示す言語である方言を話す自由さえ奪われる。男女への差別が鮮明に捉えられる。

海洋博覧会をモチーフとするシーンでは、男は音のない演奏に熱中している兵士の役に転身する。強い権利を握っている支配者に差別され、自分の本当に思っていることが話せない。音が出ない三弦と舞踊を通じて、自分の気持ちを表している。

続いて、給食のシーンでは男女は飲食習慣において同化される。男は大和風にくしゃみをしなかったので、方言札をぶら下げられる。すなわち、男女の沖縄の習慣はすべて排除され、調教師に同化される。そして、日本の安全と平和のために、防波堤になるように強制される。

戦争のシーンでは、男女は容疑者、アメリカからのスパイ、精神病患者、姫百合部隊隊員、鉄血勤皇隊隊員、郷土防衛隊隊員などの役に次々転身する。戦時中、日本軍人の役である調教師の支配と指導の下で行動する。さらに、男女は常に戦争の妨げと見なされる。日本軍人に問いかけても、よく「問答無用」と返事される。作品の後半、多くの戦争に関わる描写がある。戦争による男女の精神への傷も読み取れる。

それから、男女は新生沖縄県を復興する若者に転身する。郷土の再建を担う使命を戦後の教育者という役の調教師に強制させられる。

男女が差別された主体で支配された者であるということが容易に捉えられる。

以上のように、登場人物の調教師と男女の人物像の対照性がはっきり捉えられる。このような対立した人物像の設定から、大和人を象徴する調教師と沖縄人である男女の間での「差別・被差別」、「支配・被支配」という構造が容易に読み取れる。大和は差別をし、支配する主体、沖縄は差別され、支配される主体であることも捉えられる。

11

**第二章 調教師と同化教育**

明治政府は、廃藩置県の一連政策を採ったあと、沖縄に対して強引的に同

化教育を推進した。明治政府が教育という名目で、沖縄民衆に対して日本本

土の同化教育を推進したことで、民衆の怒りを買うのを避けることができた

と言えよう。では、大和人を象徴する調教師はどのような同化教育を行った

のか。

**2.1 「天皇陛下万歳」という言葉の教育**

調教師は男女に大和魂を入れてやるための教育をしている。調教師は最初

に標準語を教えることに力を注いだ。最初の一歩を標準語から踏み出す理由

について、調教師本人は「言葉をして「文化の乗物」と言う」[25]と説明する。

また、調教師は方言への軽蔑の念も示す。

しかも、調教師は真っ先に「天皇陛下万歳」という言葉から教え始める。

「天皇陛下万歳」という言葉を三回も教えた後、その言葉を選んだ理由につ

いて、調教師は「天皇陛下万歳」という言葉が「実に堂々たる驚きだ。音の

組み合わせといい、語呂の良さといい、雄々しさ、おさまりのよさ、安定感。

典型的な日本語だ」[26]と説明し、この言葉の良さを男女に明らかにする。

津嘉山正種による一人語りの『人類館』朗読版のＣＤを聞くと、調教師の

「天皇陛下万歳」を教える時の誇張かつ敬意に満ちたイントネーションが響

いた。なぜ調教師はこんなふうに「天皇陛下万歳」という言葉に敬意を込め

て言うのか。なぜ調教師は「天皇陛下万歳」を何よりも重要視するのか。そ

れは「天皇陛下万歳」という言葉が、特殊な意味を持っているからだろう。

明治政府は強制的な教育を通じて、天皇崇拝の思想を広げようとしていた。

処分されたばかりの琉球の民衆をしっかり管理するために、沖縄県でも強制

的な教育を行った。調教師は「天皇陛下万歳」という言葉の教育を行うのは、

男女を皇民、天皇に忠実する国民に培うためであると言えよう。

天皇崇拝を象徴する言葉「天皇陛下万歳」の教育から、日本本土からの差



[25]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:235.

[26]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:236.

12

別が容易に読み取れるだろう。

**2.2 調教師からの同化教育**

調教師は「天皇陛下万歳」という一つの言葉での教育に留まらず、ほかの

面においても教育を行う。

まず、習うより、馴れるという形で、調教師は強引に標準語を教える。

1880年、明治政府は、沖縄で、標準語を教える教師を育成するために、会話

伝習所を設立した。標準語を教える教師を代表する調教師はどのように標準

語を教えるのか。

本格的に標準語である日本語を教える前に、調教師は男女への要求を次に

のように述べている。「日本語で話すべきだ。日本語で考え、日本語で語り

合い日本語で笑い日本語で泣くべきなのだ」[27]。調教師は標準語である日本

語が男女の日常生活の全部を貫くように教育を行う。

標準語を教えると同時に、調教師は方言の使用を全面的に禁止する。標準

語は正しい、方言は正しくないという考え方を男女に注ぐ。この考え方に従

わないと、調教師は「リウキウ、チョーせんお断り」と書かれた札を罰とし

て首から下げさせる。方言である沖縄口の抑圧を通じて、言語の同化教育を

行う。さらに、注目すべきことは、この札の上に書かれた稚拙な字、「リウ

キウ、チョーせんお断り」である。これらの文字から、沖縄は朝鮮と同様に

拒絶され、差別されたことが読み取れる。日本は「1910年に韓国に「韓国併

合条約」を強要し、日本に合併し、植民地支配が始まったのである」[28]。こ

の条約のもとで、朝鮮は日本の植民地となった。既に日本の一部となってい

た沖縄は植民地の朝鮮と同様に扱われ、差別された。ただの道具である札を

通じても、沖縄差別を鮮明に捉えることができる。

また、くしゃみの発音でさえも日本風にしなければならないと男女は要求

される。くしゃみの発音を間違えた男は再び札を下げされることになる。飲

食習慣においても、常に芋を食べる男女が稲作が豊かな国、日本の人と同様



[27]知念正真.『人類館』[A].沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校生

のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:236.

[28]韓立紅.『日本文化概論（第二版）』[M].南開大学出版社,2006:199．

13

に米を主食とするよう、強制させられる。

その他、調教師も「日本人として、日本の文化を重んじ、（中略）日本的

なものをことなく愛し受け入れる」[29]という日本人の秩序意識を男女に仕込

む。男女に日本人としての覚悟を持たせ、大和風に振舞うよう、命令する。

以上の分析から、調教師は「天皇陛下万歳」という一つの言葉での教育に

留まらず、標準語の教育、習慣の大和風、日本人としての覚悟など、同化教

育をしていることが分かる。

大和風に振舞う調教師は男女を大和人へと同化するよう、沢山のやり方で

教育をしている。支配する側の調教師からの差別が男女の生活の隅々にされ

ている。同化教育の下で、沖縄風の全ての習慣が排除され、大和風の同化を

余儀なくされる。教育面における「差別・被差別」、「支配・被支配」とい

う構造が容易に捉えられる。



[29]知念正真.『人類館』[A].沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:235.

14

**第三章 戦争体験**

第二次世界大戦において、沖縄は日本唯一の戦場となり、多くの沖縄人は

沖縄戦で日本軍人に差別され、「集団自決」という形で、命の終わりを告げ

た。沖縄戦をはじめとする戦争において、沖縄民衆は壊滅的な打撃を受けた。

登場人物である調教師も陳列された男女も戦争を体験し、戦争をはっきりと

覚えている。

**3.1 陳列された男女の戦争記憶**

男は米軍の暴行を語り、女はベトナムから帰ってきた日本本土の兵隊に不平等に扱われたことを語る。男女がそれらを供述した過程、調教師は何度も「黙れ」と言ったのにも関わらず、男女は米軍と日本本土の兵隊からの差別を経験した通りに語る。男女は各戦争で受けた差別を鮮明に覚えている。

沖縄地上戦の頃の壕のシーンに変わると、日本軍人の役に転身する調教師は日本の平和と安全のために、日本の防波堤になるように強く要求する。男女は戦争の前線に動員される沖縄民衆の役になり、調教師の支配の下で行動する。調教師は郷土防衛隊の男の武器を貸してほしいとの願いも躊躇なく拒絶する。男は「天皇陛下万歳」をうまく発音できないので、アメリカのスパイであると判断され、殺される。また、赤ん坊の声が戦争の妨げと見なされ、日本軍人の役である調教師に殺される。また、男女は日本軍人に問いかけても、よく「問答無用」と返事される。男女は失語症の状態に陥られる。日本軍人の残忍な面はここから捉えられる。

残酷な米軍と日本軍人の暴行は、男女にどんな影響を及ぼしたのか。精神病院になるシーンを見よう。

戦時中の悲惨な両方とも、戦争後遺症患者であります。戦時中の悲惨な体験に怯え、戦時下の生々しい恐怖にさらされて、いたいけな魂が脆くても崩れ、精神の破綻を招いたのであります。（中略）彼等にとって、

戦後どころか、いまだに戦争は続いているのであります。[30]



[30]知念正真.『人類館』[A].沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:249.

15

調教師は戦争で被害を受けた男女の様子を解説する。直接的に戦争の激し

い状況や外部からの攻撃を描写するのではなく、精神への悪影響、悲惨な体

験下での怯えなどの戦争後遺症を描写している。つまり、外部からの攻撃に

よる傷は沖縄人の身体を壊すのみならず、心理的にも永遠に影響を及ぼすの

である。戦争を経験した男女が戦後の生活でも戦争による心の傷が残ってい

る。

戦時中、沖縄人は、長い間心理的な抑圧を受け、日本本土に差別されてき

た。日本軍人の役に転身する調教師と沖縄民衆の男女の間での「差別・被差

別」という構造が各戦争のシーンを通じて捉えられる。

**3.2 沖縄戦時中の調教師**

先の人物像の設定に対して行った分析から、調教師からの差別がはっきり捉えられる。しかし、調教師の役はすべて差別の主体であるという訳ではなく、男女を平等に扱う役もある。

沖縄戦のシーンで、調教師がカマーの役に転身し、沖縄出身の沖縄人になる。女がウシー婆、男がカミー兄の役に転身する。会話から、三人は同じ集落の仲間同士であることが分かる。三者は共に沖縄戦時下で、家族を失い、深い悲しみを背負っている。

日本の国土面積の0.6%しか占めない沖縄は日本の捨て子のように、第二次世界大戦において極東アジアでの戦場となった。沖縄民衆は激しい戦争に巻き込まれ、残酷で苦痛な戦争にただ耐えるしかなかった。これほど残酷な沖縄戦に直面する調教師は男女と同じ空間にいたことで戦争について話した。沖縄戦時中、戦争が三者の架橋となって、三者の間に、仲間意識が形成された。そして同じ空間にいる三者は互いに自分の悲惨な運命を話した。

調教師の役の変化と男女への態度の変化が沖縄戦のシーンからはっきり捉えられる。沖縄戦のシーンを通じて、調教師の本来の出身が沖縄で、沖縄人であることが分かる。沖縄人であるアイデンティティーを認識した調教師は共同体である沖縄人同士を無差別に扱うようになった。

では、沖縄出身の沖縄人である調教師はなぜ同様に沖縄人である男女を差別し、支配するのか。沖縄内部にも葛藤が生まれているからであろう。

16

**第四章 登場人物間の問題**

沖縄現状に直面する際、沖縄人の間でも見解の相違があり、沖縄内部にお

ける葛藤が生まれている。では、沖縄人である登場人物の調教師と男女のそ

れぞれの考え方と見解はどうであろう。

**4.1** **言語的な葛藤**

沖縄内部の対立はどのように描かれているのか。まず、言語学的な立場か

ら見てみよう。

調教師は男女と同様に沖縄人であることは言葉遣いから分かるだろう。第

一に、「馴れればならんのラ」の「ラ」は「明かな訛り、（中略）沖縄口の

訛りを潜ませている。（中略）「ウチナーヤマトグチ」が混在していること

の明らかな証拠なのである」[31]。第二に、「サア、モウヨロシイレソー」の

「ソー」はウチナーヤマトグチのよく使われる言葉遣いである。この二つの

例は、調教師が沖縄人であることを明示できる証拠とも言えよう。しかし、

それは純粋な「沖縄口」ではなく、「ウチナーヤマトグチ」が混在している。

けれども、後の沖縄戦のシーンでは、三人は戦争の悲惨な状況を純粋な「沖縄口」で全て語っている。このシーンでは、調教師の男女への態度も変わって、前のシーンでの態度と比べると、もっと丁寧である。男女と同様に沖縄人であることも作品の終わりに近づいてきた部分で明らかにされた。

そもそも、差別する日本本土と差別された沖縄との対立的な関係は、標準語である「大和口」と方言である「沖縄口」を通して示されていると思われる。しかし、『人類館』には、「ウチナーヤマトグチ」も混在している。では、『人類館』に対立的な差別を示している「大和口」と「沖縄口」に混在している「ウチナーヤマトグチ」の役割はなんだろう、新城が次のように述べている。

「沖縄大和口」を介在させることによって、日本（語）と沖縄（方言）との見易い二項対立的磁場から逃れて、新たな言葉の闘いにむけて



[31]新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].日本東洋文化論集.2000(6):104.

17

『人類館』は、自らを拓いていった。[32]

『人類館』には、日本本土の「大和口」と沖縄人の「沖縄口」の二つの対立した差別の構造と、三つ目の「ウチナーヤマトグチ」が混在している。「ウチナーヤマトグチ」は固定した対立的構図を差異化し交錯させていく役割を果たしていると言えよう。「ウチナーヤマトグチ」の混在は沖縄内部における葛藤を示唆するものではないだろうか。沖縄内部における葛藤が「ウチナーヤマトグチ」を通じて表現されている。

**4.2 内部における葛藤**

「沖縄戦」のシーンを読むまでは、調教師は大和人である印象を持つ読者

が大勢いるであろう。大和口で人類館に来ている観客に向かって、男女と人

類館などの事柄について解説し、大和口で男女に向かって、調教する。男女

に、日本国民として、天皇陛下に絶対服従する覚悟を持たせ、日本人の秩序

意識を守るよう、「天皇陛下万歳」という言葉も教える。言語においても、

思想においても、振る舞いにおいても、調教師は大和人であると考えられる。

しかし、調教師の言葉遣いを分析すると、特に作品の終わりに近づいてき

た「沖縄戦」のシーンから、調教師は沖縄人であることが分かる。沖縄人で

あるのに、なぜ大和人のように振舞うのか、なぜ同様に沖縄人である男女を

差別するのか。これは調教師が「新大和」であるからだろう。

「新大和」とは、「同化・皇民化教育をいちはやく受容し推進した、体制

派の沖縄人インテリ層」[33]のことである、と坂本（平敷）が「新大和」の定

義を定めた。「新大和」である調教師はどのように同様に沖縄人である男女

を差別するのか、具体的に見てみよう。

男女の身体的な特徴を解説するシーンでは、調教師は乱暴な言葉使いで解



[32]新城郁夫.言語的葛藤の沖縄ー知念正真『人類館』の射程[A].沖縄文学という企て 葛藤する言語・身体・記憶[M].インパクト出版社,2003:69.

1. [坂本（平敷）尚子](https://www.jstage.jst.go.jp/search/global/_search/-char/ja?item=8&word=%E5%9D%82%E6%9C%AC%EF%BC%88%E5%B9%B3%E6%95%B7%EF%BC%89+%E5%B0%9A%E5%AD%90) . 沖縄人の自問自答 ― 知念正真『人類館』再考 [C]. 演劇学論集,2008(46):8.

18

説する。しかも、男を「鞭で顎をしゃくり上げる」[34]、女の身体的な特徴を

解説しながら、「鞭の先で裾をまくって見せる」[35]。わざわざ「鞭」を使用

している点から、調教師の男女に対する軽蔑的な態度が捉えられる。そのほ

か、男女の衣食住の特徴を解説するとき、調教師は軽蔑かつ馬鹿にするよう

な口調で語る。

ただし、調教師はずっと差別する主体であるわけではなく、差別されたこ

ともある。それは、飲み屋で調教師が転身した会社員の役に注目すべきだ。

調教師はいくら仕事に貢献しても、能力が高くても、「リュウキュウらし

い」[36]から、昇進できないという苦しみに耐えるしかなかった。就職におい

て、調教師は沖縄人であるから、差別された。また、差別された調教師は同

情を寄せてきた男の首から方言札をはずした。

「新大和」である調教師が差別する主体であり、差別された主体でもある。

自分が男女より高い地位であることを維持しようとするため、「新大和」で

ある調教師は大和風に振舞い、男女を差別していた。沖縄人である調教師は

沖縄外部から差別される対象であるが、男女より高い地位を維持しようとし

ている。なので、また他の差別する対象、男女を見つけて差別している。こ

れは差別の重層化である。差別の起源は差別される側、「新大和」である調

教師に遡ることができると言えよう。

また、男女の間にも葛藤が生まれている。男は調教師が去った後、「急に

態度がガラリと変わり、横柄に振る舞い始める」[37]。女より男の方が地位が

高いということを女に示すために、家みたいな刑務所での経験を優越感に浸

りながら、大げさに言い、自分は大した物だということを女に思わせる。調

教師が去ると、男は女に襲いかかる。調教師がいない時、男は女をいじめる。



[34]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:226

[35]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:227

[36]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:243

[37]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校

生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:228.

19

女は男の語った秘密を言わない、「絶対、雷が落ちても言わない」[38]と約

束したのにも関わらず、調教師に脅迫されると、約束を破り、男を裏切って

しまう。

また、作品の終わりのシーンでは、差別する調教師が死んで、差別される

男は鞭を拾って、調教師風に振舞っている。これは、また新たな差別が始ま

ることを指しているのだろう。「差別は再生され円環化してしまう。差別・

支配者は死んでも、差別・支配は残る」[39]ということを示唆する。

「ウチナーヤマトグチ」の混在や「新大和」である調教師の態度の変化、男女の間のやり取り、調教師が亡くなった後、男の反応などから、沖縄人内部における葛藤と問題が捉えられる。知念正真は沖縄外部からの差別だけでなく、沖縄内部における問題へもフォーカスをあてているのだと言えよう。

沖縄県が設置されてから、現在に渡るまで、沖縄社会は多様な問題を抱えている。例えば、沖縄が県として設置されたばかりの時、明治政府の政策に従って新たに発展の道を開拓していくか、それとも琉球風な生活をそのまま継続していくか、食い違った意見があった。それらの意見が『人類館』の登場人物、調教師と男女を通して示される。調教師をはじめとする「新大和」は明治政府の文明開化政策などに従って、積極的に大和人の同化教育を受容し、推進した。一方、男女をはじめとする沖縄人はそのまま沖縄の習慣で生活を送っている。

また、敗戦後、アメリカの占領のもとで、沖縄人はアメリカに対してどのような態度を取るべきか、日本に復帰すべきかどうかなど、幾度も様々な問題に直面した。調教師をはじめとする「新大和」は、熱心に日本に復帰するよう、力を注いだ。しかし、一方、男女をはじめとする沖縄人はどのような状況においても、消極的な態度を取り、差別されても反抗しなかった。これらの問題に直面する際、沖縄人の間でも見解の相違がある。これは沖縄の現状でもある。



[38]知念正真.『人類館』[A]．沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校生のための副読本／近代・現代編』[M].沖縄時事出版,1991:232-233.

1. [坂本（平敷）尚子](https://www.jstage.jst.go.jp/search/global/_search/-char/ja?item=8&word=%E5%9D%82%E6%9C%AC%EF%BC%88%E5%B9%B3%E6%95%B7%EF%BC%89+%E5%B0%9A%E5%AD%90) . 沖縄人の自問自答 ― 知念正真『人類館』再考 [C]. 演劇学論集,2008(46):14.

20

**終わりに**

差別という問題は沖縄県が設置された後、ずっと沖縄民衆を悩ませている。現代に至っても、沖縄差別はまだ残っている。日本の一部となったとは言え、よく日本本土に不平等に扱われ、差別されてきた沖縄差別に直面する際、沖縄人の間でも食い違った意見がある。どのように沖縄差別に直面すべきか、新しい生き方を開拓するのか、それとも、消極的に琉球人の古い習慣を受け継いでいくのか。

沖縄出身の作家たちは各自独特な方法で、沖縄差別を描くことに力を注いでいる。その中で、『人類館』は戯曲という形で、観客の興味を引き起こさせる。作者、知念正真は教育、戦争などの角度から、沖縄で起こった近現代の重大な事件をモチーフとして表現巧みに言い回すレトリックという手法で、一定の空間の中で、人物像の設定、調教師からの同化教育、沖縄戦をはじめとする戦争を通じて、沖縄差別を描写している。

さらに、知念正真は沖縄外部からの差別に視点を置くのみならず、沖縄内部における葛藤をも重要視する。作者は沖縄の直面している状況の複雑さや困難を人々に理解してもらいたいと考え、『人類館』を創作した。

作者は沖縄差別を描き出し、しかも淡々と沖縄差別を描き出すのではなく、各シーン滑稽味を持ちながら、観客あるいは読み手を笑わせる。観客あるいは読み手に沖縄差別を一層強く印象づけていると言えよう。それらが『人類館』の評価が高く、今でも、魅力を保っている理由であろう。

本稿はただ知念正真の戯曲『人類館』のみを分析し、沖縄差別を検討した。他の沖縄差別に言及した作品と知念正真の戯曲『人類館』との共通点と相違点などを比較するのは今後の課題にする。

21

**参考文献**

**作品**

1. 大江健三郎.『沖縄ノート』[M].岩波新書,1970.
2. 山之口貘.『会話』[A].『山之口貘全集』第１巻[M].思潮社,1975.
3. 知念正真.『人類館』[A].新沖縄文学（33 号）[M].沖縄タイム社,1976.
4. 東峰夫.『オキナワの少年』[M].文藝春秋,1980.
5. 知念正真.『人類館』[A].沖縄県高等学校障害児学校教職員組合編.『沖縄の文学－高校生のための副読本／近代・現代編』 [M]. 沖縄時事出版,1991.

**中国文献**

1. 韓立紅.『日本文化概論（第二版）』[M].南開大学出版社,2006.
2. 刘永辉.论日本冲绳方言与“冲绳日语”的形成[J].中南林业科技大学学报（社会科学版）,2009,3(6):117-119.

**日本文献**

1. 田中千禾夫.選評[J].新劇,1978(3)：112-113.
2. 別役実.選評[J].新劇,1978(3)：113.
3. 八木柊一郎.選評[J].新劇,1978(3)：115.
4. 新崎盛暉.『沖縄現代史』[M].岩波新書,1996.
5. 岡本恵徳.『現代文学にみる沖縄の自画像』[M].高文社刊,1996.
6. 新城郁夫.ちねんせいしん『人類館』論--他者化をめぐる言葉の闘争[C].

日本東洋文化論集,2000(6)：75-124.

1. 新城郁夫.言語的葛藤の沖縄ー知念正真『人類館』の射程[A]．沖縄文学という企て 葛藤する言語・身体・記憶[M].インパクト出版社,2003.
2. [坂本（平敷）尚子](https://www.jstage.jst.go.jp/search/global/_search/-char/ja?item=8&word=%E5%9D%82%E6%9C%AC%EF%BC%88%E5%B9%B3%E6%95%B7%EF%BC%89+%E5%B0%9A%E5%AD%90).沖縄人の自問自答―知念正真『人類館』再考[C].演劇学論集,2008(46)：5-23.
3. 金誾愛.演劇集団「創造」研究における問題提起：戯曲『人類館』を手がかりに(研究ノート)[J].東京外国語大学海外事情研究所 クァドライテ：四分儀：地域・文化・位置のための総合雑誌,2013(15)：339-354.

22